

平成29年度家庭教育「学びカフェ」推進事業検討会議（第3回） 議 事 概 要

1 会議の概要

- (1) 日 時 平成30年2月9日(金) 10:00~11:30
- (2) 場 所 北海道立道民活動センターかでの2・7 8階810会議室A
- (3) 出席者 検討会議構成員：7名、事務局：4名（別紙のとおり）
- (4) 次 第
 - ア 開会
 - イ 挨拶 北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課主幹 松 井 晃 之
 - ウ 説明 (ア) 平成29年度家庭教育「学びカフェ」推進事業の取組状況及び今後の方向性について
(イ) 平成30年度からの家庭教育事業について
 - エ 議事 家庭教育ナビゲーターハンドブックについて
 - オ 閉会

2 発言要旨

【家庭教育ナビゲーターハンドブックについて】

- 以前に学びカフェを行ったときに、話すきっかけとして家庭教育チェックシートを活用し、たくさんの方々に集まってもらったことがあります。色々なバージョンのチェックシートを用意し、ハンドブックとともに活用していくのが良いのではないかと思います。丸をつける形で、良い悪いを判定するものではなく、それを見て話のきっかけにします。お母さんたちに集まってもらうためのきっかけ作りが難しいため、チェックシートは置いてあるだけで人が集まるので、あると良いと思います。
- 昨日と一昨日家庭教育ナビゲータースキルアップ研修会を実施しましたが、ナビゲーターハンドブックを配付すると参加された皆さんが大変喜びました。研修中に利用するときには、家庭教育「学びカフェ」というものがあるという勉強になり、研修後にじっくり読んだときには、これなら私にもできそうという内容があれば、活動の参考になるのではないかと思います。また、自宅の棚等で保管するときに背表紙があるとわかりやすいし、意識もできるようなと思います。
- ハンドブックのページには色がついていて分かるようになっていますが、1部、2部ではなくて、内容に直結するタイトルのインデックスがあると、より分かりやすいです。
- ハンドブックの内容追加も良いですが、作って安心するのではなく、市町村の本当に届けたいところに届けることが大事だと思います。一番難しいところだとは思いますが、もっと見やすく手に取りやすい方法を考えても良いと思います。
- 活動事例が載っていれば、活動の敷居が低くなるような気がします。ハンドブックの内容として家庭教育ナビゲーターに向けた内容が少ないので、取り組むことができそうな、ナビゲーターに向けた内容があると良いと思います。
- 学びカフェのためだけに集ってもらわなくても、すでに集まっているところ（イベント等）に行き活動するのが良いと思います。
- 旭川では、月に1回子育て相談の日がありますが、その中で活動させてもらおうと話をしていきます。保健師さんとの相談では待ち時間があるので、その間にお話できれば良いかなと思って、次の春からできるように準備しています。自ら色々なところに入っていくと、なかなか活動できないと感じます。
- 先日根室で行った家庭教育ナビゲーター研修は、放課後教室や児童教室の指導員の方たちのスタッフ研修会として行われました。その方たちが一番困っているのが、問題を抱えたお子さん

のことを親にどのように説明するか等の保護者対応でした。こうしたスタッフの方や保育士さんたちにコミュニケーションについて学んでもらい、保護者対応を少し変えていくだけでも、ずいぶん相談の幅が広がると思います。学びカフェのイメージを、「みんなで話す」、「二人でじっくり話す」、「話には入れなくても資料を読んでみる」等、色々考えていかなければならないと思いました。

- 人を繋ぐことが学ぶに繋がると思っています。保護者同士を繋ぐだけでなく、支援者同士を繋ぐのがとても大事に感じました。ハンドブックのアンケートには「ママ友について」と書かせていただきましたが、お母さんたちはテーマがかたいと敬遠しがちです。いきなりざっくばらんに話しましょうと言うのではなく、日常に密接している何気ないテーマで話し始めて、その話題の中で資料を出していくのがスムーズではないかと、普段の活動の中で思いました。
- 子育て中は色々なことに腹が立ったり、自分を責めてしまったりすると思います。こんなときいらいらしませんかというチェックシートやいらいらを治めるヒント等もあったら、気持ちが楽になるのではないかなと思うので、アンガーマネジメントを提案しました。
- 妊娠だけでなく、子どもを持つこと全体に関してですが、一番気になっているのが、普段から人の手を借りずスマホ等を利用して自分で解決する生活をしていて、子どもが生まれて人の助けが必要となったときに、助けを受け入れる体勢が整っておらずハードルが高いみたいです。まずは、その気持ちのハードルを下げないといけないと思います。昔はおじいちゃんおばあちゃんがそばにいて気軽に相談できていたことが、できなくなってきています。手を借りないといけない状態になっているのに、相談できず育児うつになって玄関を開けなくなってしまってお母さんもいらっしゃいます。そうならないための、内容の追加ができれば良いと思いました。
- 放課後子ども教室に 17 年前から関わってきまして、無償ですつと行ってききましたが、現在引き継いでくれたお母さんたちから少しで良いので有償でという声が、だんだん出てきました。聞いて最初はそれはどうなんだろうと思いましたが、皆さん主婦で働いていない方たちなので、少しでも謝金があると、頑張ろうという気持ちになるということなんだと思いました。ナビゲーターも今後も増やしていくということで、お金が全てではないと思いますが、実際として有償でと思っている人もいます。
- 町においても学びカフェ事業を行っており、ナビゲーター自体が町にまだ足りないということで養成しているところですので、その人たちと事業を核となって行う人たちで、謝金を支払う人と支払わない人というのはおかしいような気もしますが、広く巻き込んで大きい活動にしたいという気持ちもあり、そこが難しい部分だと思っています。
- あまりお金や形にこだわっていくと従来のものになってしまうと言うか、今までの柔軟性が損なわれてしまうのではと思います。もちろん各市町村に企画を中心になって考えるメンバーがいて、家庭教育ナビゲーターでもあり学びカフェ企画委員会でもあるような形になっていくと変わるのではないのでしょうか。
- 基本的な意味で夫婦の共同は必要だと思いますが、「ひとりで悩まず周りに助けを求めてみよう」という内容を 1 枚入れないと、一人親家庭の方の孤立感をさらに高めてしまうと思います。
- 斜めの関係というのが大事にされてきています。直接の家族やおじいちゃんおばあちゃんだけでなく、例えば近所の人や学校の先生等との斜めの関係が大事だと聞いて、確かにそうだと思います。密接して関わるのではなく、一部繋がるだけでも、変わるきっかけになると思います。夫婦でというより、斜めの関係と言うほうが、どんな人でも当てはまる内容になると感じました。
- 今は、妊娠中から色々な夫婦関係の方が多いです。妊婦さんは不安定なのですが、夫はその不安定さがわからないからです。そういう中で、夫婦で共同してというのは、きついと思う方もいると思います。出産後に離婚される方が増えています。乳幼児検診のときに、離婚手続中や別居中という方が、最近とても増えてきています。マタニティー教室に夫婦でいらっしゃる方もいれば、もうすでに一人親でマタニティー教室自体に行きたくないと感じている方もいます。
- 「子育て」というより、「子育て」ですね。子育てというと、育てる人だけの話になってしま

いますが、子育てだと、みんなが関わることができます。子どもの育ちを色々な人で支えていこう、みんなが応援しているというメッセージはどうでしょうか。

- マタニティー編というほどのページではなく、「地域みんなで支え合っていこう」というメッセージを1枚入れることで、保健師さんとも繋がりつつ、赤ちゃんが生まれるまえの段階からずっと地域と関わって、つらいときには助けを求めて良いんだという思いに繋げるのが良いと思います。
- 保健師さんと私たちの視点が違っていますが、今は保健師さんではフォローしきれないところを地域の人たちが行っているということで、情報交換しながらという繋がりも出てきています。ナビゲーターさんに求めることは地域のお母さんたちの視点だと思います。保健師さんだけでは見えない部分を、ナビゲーターが見ることができれば良いと思います。